

# 宮古教育時報

発行者 沖縄県教職員組合  
宮古支部 情宣紙  
TEL 72-3328 FAX 73-2603  
E-mail; otu-m@miyako-ma.jp

◇各分会の情報をお知らせ下さい。

## 新規採用者歓迎の集い

恒例になりました、新規採用者歓迎の集いが4月24日(土)に宮古教育会館2Fで開催されました。

今年の宮古地区の新規採用者は12名です。内訳は小学校が9名、中学校3名です。氏名は以下のとおり。

仲間 章子(平一小)	石川 友紀子(池間小)
平良 真由美(北小)	新城 なぎさ(西城小)
下地 優子(東小)	仲原志乃芙(佐良浜小)
鶴澤 由紀子(鏡原小)	本村 税(平良中)
與那嶺 萌子(南小)	伊志嶺 澄人(北中)
金城 麻美(宮島小)	垣花 雄盛(久松中)

歓迎会には総勢60名以上の方が集い、楽しい職員ダンスの出し物(東小分会)や松ケンサンバやバンド演奏ありの和気藹々とした会合でした。

新規採用者も先輩方の誘いで12名中10名の方が参加し、最初は緊張からか縮こっていた新採者もいましたが、酔い(もとい宵)がふけるまで語り合い、お互いに絆を深めることが出来ました。

また、今年度はタイミングよく前日の学習会で講師として来島していた日教組特別執行委員の藤川さんも集いに参加して頂き、激励のことば(組合の大切さ等)を頂戴することが出来ました。

嬉しいことに当日の会(2名加入)を含めて4名の新採用者の方が組合員に加わりました。やはり働く者として自分たちの労働条件をはじめ教育研究等も人任せでなく、当事者としてしっかり理解して、行動していくことはとても大切です。新規加入のみなさん手を取り合ってこれかも諸活動に取り組んで行きましょう!



新採のみなさん



松ケンサンバ(近藤氏)



東小ダンサーズ

## 公務員制度改革と教職員組合の課題についての学習会に参加して

(多良間小分会 島尻直樹)

4月23日(金)に公務員制

度改革と教職員組合の改題について、東京から藤川伸治(公務公共サービス労働組合協議会)さんをお招きした、学習会に参加しました。

その中で沖縄県教職員の病気・休業者の割合が全国一高い背景について、「沖縄独自のゆっくりとした時間のなかで育まれてきた人間的なコミュニケーションが、元小泉首相が行った競争万能主義改革(公務員改革)で断ち切れ、学校では多忙化する職務に追われ、児童生徒の話や訴えを聞く余裕がない現状で疲労度が高まり、競争原理は沖縄の環境になじまない。」と話されていました。今の教育現場の実態として、ある調査によると、「とてもつかれる」と回答する教員が45%、強い疲労度を訴える教員は、一般企業の3倍以上にも及び、民間労働者に比べ、疲労度は極めて高いうえ、さらには、うつ病と関係が深い自覚症状を訴える教員は民間企業の2.5倍だという。(ウリツク調査)

このような背景及び私自身も含め周囲を鑑みると、好きな仕事だからやりとげると意識や価値観、責任感で職務に専念し、法定労働時間を大幅に超えて職務に励んでおられる教員の方々が一般的ではないでしょうか。現在の体力及び熱意でこのさきずっと、今の現場の環境で働き続けられるのかは、私自

身不安であります。専門職という立場でこれからの世界を担う児童生徒の育成に教育の最前線に関わる我々が、多忙化する職場の環境や、仕事を一人で背負い込む校務分掌のありかた、職場の人間関係要因で、心の病や健康・体力面でつぶれてしまうことは、学校の教育活動全体で取り組んでいる指導内容に矛盾し、児童生徒にとって良い姿ではないと思います。

年金財源確保の不安定から、将来の定年退職年齢が65歳へと引き上げられる可能性が出てきている今日、私たちは、現在の労働環境の中で65歳まで、今の働き方でこれから先やっていけるのか不安になるのは私だけでしょうか。

藤川さんのお話から、今私たちに求められているのは、労働環境をみつめ、職場で休むことを認めあい、働き方を変えていく業務の改善や議論が必要であるという内容でした。



私自身にとって、これからの生き方や将来の設計を今一度、みつめる機会となりました。

今回の学習会に参加して、これからの教員生活をみつめるうえで、貴重なお話を聞かせて頂いたことに感謝しております。また、新たに知ったことで、毎月給料から、差し引かれている共済長期掛金は、貯蓄ではなく、退職されたOB教職員の年金を支えになっていることも初めて知ることができました。さらには、このように、現職員が支える背景には、終戦後、多くの方が戦地からもどり、戦後復興で人口がふえる中、年金の助け合いの精神から、これまで給与からの共済長期掛金をあてていることを知り、戦争のつめあとを垣間みる思いがしました。

今後、先輩方や同僚のみなさんと関わりながら、こらからの教員生活をみつめ改善できるよう、多忙化する現場でみんなと協力し、一つになる指針を教えてくださいました。ありがとうございます。

## 結集した3000名以上の市民・村民！

### 4. 25宮古地区大会

去る4月25日（日）、本島の読谷村運動広場では9万人以上の方が「新基地NO!」で心をついにしました。ここ宮古島でも、同日強い日差しの中、カママ嶺公園多目的広場で「米軍普天間基地の閉鎖・撤去、下地島空港の

軍事利用反対を求める」宮古地区大会が行われ、約3000名以上の市民や多良間村からの仲間が集まり「基地はノー！沖縄に基地はいらない」の声が渦巻きました。

大会の終盤では、「沖縄を返せ」の大合唱で、特に退職教職員の先生方をはじめ復帰闘争を体験した諸先輩方は、力強く肩を組み合せて熱唱していました。

大会には、沖教組宮古支部も実行委員としてビラ配布等や諸準備に関わり、当日も交通整理や会場設営・整理に組合員を動員して会を支えました。また、多くの分会からカンパ等も集まりご協力ありがとうございました。大会は終了しましたが、今後の取り組みが益々重要となってきます。（5月4日には鳩山総理大臣が沖縄入りし、知事に県内への基地一部移設を要求している。）



### 免許更新制について

《法改正までの期間の免許更新制への対応》日教組広報誌より

①2009年度の受講対象者（第1グループ：2009年4月～2011年1月末が受講期間）→法改正に向け動き出すとはいえ、受講が必要です！ ②2010年度の受講対象者（第2グループ：2010年2月～2012年1月末が受講期間）→受講期間が2年間あり、必ずしも2010年度の受講の必要性はありませんが、自主的な受講は可能です！ ③すでに受講した、もしくは更新した者の扱い→制度の抜本的見直しの中で、講習に関わるインセンティブ（受講が無駄とならない手だて）が検討されます！詳細は本部へ問い合わせ下さい。なお免許更新制の資料等は支部にもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。

左記から各支部の情報が閲覧できます。

<http://www.oki-tu.org/page/category/sibujoho/>